

追悼

田畑先生を偲んで

三宅 康博

Miyake Yasuhiro

田畑米穂先生が2019年11月14日に逝去されたとの一報に、しばらく呆然とし、生まれて初めて、息をするのを忘れてしまうような感覚を覚えたことを記憶しています。唯一の慰みは、同年4月20日に阿部さん（量子科学技術研究開発機構高崎量子応用研究所）のご尽力で開催された「田畑先生と応用放射線化学の会@カラムコート」で、先生にお会いし、5分ほどのお話しできたことでした。お言葉は少し、たどたどしいところはあったものの、「どうですか?」と、最近のミュオン研究の話に耳を傾けていただき、「うん。うん。」と嬉しそうに頷いてくださいました。私にとって一生、忘れられない田畑先生の最期の思い出です。

最初に、田畑先生にお目にかかったのは、放射線化学の講義でしたが、顔を合わせて、お話しさせていただいたのは、原子力工学科4回生の卒業研究見学会で東海村を訪問した時でした。今だから正直に申し上げます。田畑先生の研究室の門を叩いた4人組は、いずれも、放射線化学の研究を面白いと思ったのは嘘ではありませんが、むしろ、懇親会を頻繁にやってもらえそうで、和気藹々と学生生活をエンジョイできそうな雰囲気に釣られたのが本当のところでした。研究者としての心構えをあまり持ち合わせていない学生でしたので、毎週、東海村に遠征して、研究生活に勤しむというのは、大変厳しいものがありました。本郷での授業が終わって、上野駅に向かう道すがら、「あーあ、これから東海村に行く

のか。」とネオンに後ろ髪引かれる思いで持ち合わせていない崇高でストイックな気持ちを奮い立たせる必要があったことを思い出します。

そんな中でも、卒業論文、修士論文、博士論文を田畑先生、伊藤泰男先生の元で、なんとかやり遂げることができたのは、田畑先生にお会いする度に、「どうですか」から始まり、「それは、おもしろいね」と常に温かい眼差しで励ましていただけるコミュニケーションがあったからです。何度か、くじけそうなときにも、田畑先生のお言葉を聞くと、いつの間にか、鼓舞され、元気が出ている自分がいたことを覚えています。今更ですが、田畑先生は、未成熟な学生に、研究ができるという面白さを教えておられたのだということがよくわかります。

卒業論文を終えてからも、田畑先生の研究室で、修士課程に進学し、陽電子科学の研究をすることに決めましたが、修士課程を卒業してからは、原子力関係の会社に就職するつもりでした。大学に残って、研究者として生きていくのはなかなか難しきだろうなと思っていただけです。そんな中で、出会ったのが、ミュオンでした。田畑先生は、放射線化学の大家であることは有名ですが、研究分野という観点で、極めて懐が深く、当時、あまり知られていなかったミュオン科学にもご造詣がありました。修士2回生の秋頃だったか、就職・進路相談をさせていただいていた時のことです。「いくつかの会社を紹介することもできるが、博士課程に進学して、ミュオンの研究をしてみないか。」と仰っていただきました。まさに、私のその後の研究者人生を決定づける一言でした。

そのおかげもあって、「凝集相における Mu 化学」というテーマで、博士課程を無事、3年で修了し、卒業後、TRIUMF研究所のあるカナダのバンクーバーでWalker先生の元でポストドクトラルフェローとして、研究者人生をスタートすることができました。その後、多少の紆余曲折はありましたが、現在に至るまで、人生のほとんどをミュオン科学研究に没頭し、エンジョイしています。

私に研究者人生を歩ませてくださった人生の師を失ってしまいました。唯々、残念でなりません。改めて、心から田畑先生のご冥福をお祈り致します。

(高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所・ミュオン科学)